

(単元) 漢字の書 行書の学習

(本時のねらい)

生徒は、中学校の国語科書写において、楷書と行書を学習し整った文字の美しさを感じる能力を身に付けている。高等学校の芸術科書道 I では、これまでの鑑賞の学習で分析的鑑賞の観点を身に付けてきた。

本単元で扱う教材「風信帖」は、空海によるもので、中国の能書家である王羲之と顔真卿の書の影響があり、日本及び中国の書の伝統文化を伝えるものである。王羲之、顔真卿、空海の古典を比較分析して臨書することで、鑑賞と表現が関連していることを理解し、日本及び中国の書のよさや美しさを創造的にとらえさせたい。

以下に単元の目標と本時の指導目標を示す。

➤ 単元の目標

- ① 日本及び中国の文字と書の伝統と文化について関心をもち、古典の表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。 (書への関心・意欲・態度)
- ② 行書の書の美に対する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し工夫する。 (書表現の構想と工夫)
- ③ 創造的な書表現をするために、字形の構成や全体の構成の要素を理解する。 (創造的な書表現の技能)
- ④ 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取る。 (鑑賞の能力)

➤ 本時の指導目標

- ・ 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解するために、「風信帖」を分析的に鑑賞している。 (鑑賞の能力)

(ICT 活用方法)

映像資料やパワーポイントをプロジェクターでホワイトボード(マグネットシート)に投影する。

➤ 映像資料

生徒に空海が唐に渡り、仏教や書の学習に励んだということを捉えさせるために、空海の人生を映像資料で提示した。従来は写真や絵の提示をしていたが、映像にすることで空海や空海の書に対する関心が高められ、本時の活動の導入となった。

➤ パワーポイント

生徒に「風信帖」を鑑賞して字形の構成や全体の構成を確認し、書風を理解させるために、空海の人物像や三筆を古典作品、ゆかりの地を紹介した。また、「風信帖」を「蘭亭序」、「争坐位文稿」と比較し、「風信帖」の字形の構成や書風をまとめる座標軸を作成する方法や、鑑賞カードの記入方法について提

示した。従来は書画カメラで提示したり板書をしたりしていたが、パワーポイントでの説明によって説明の時間を短縮し、生徒の活動時間を増やすことができた。また、本校の書画カメラは小さなブラウン管テレビ2台に映し出されるため、生徒全員が見えないこととモスキート音によって気分が悪くなる生徒がいた。それらを解消し、全員が一つの画面を見て授業が進められるようになった。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT 活用方法	備考
導入 (5分)	・前時の学習内容を復習し、本時の目標を確認する。	・前時の復習から本時の目標を立て、目標を板書して説明する。		
展開 (40分)	<p>1 空海の人物像について学ぶ。</p> <p>・空海について知っていることを発表する。</p> <p>2 「風信帖」を「蘭亭序」、「争坐位文稿」と比較し、座標軸を作成する。</p> <p>・比較分析した内容を付箋に記入する。</p> <p>3 鑑賞カードを作成する。</p> <p>・座標軸をもとに言葉で特徴をまとめる。</p> <p>4 鑑賞カードを相互評価する。</p> <p>・互いに鑑賞</p>	<p>・映像資料を用いて、空海への興味関心を高めさせる。</p> <p>・「風信帖」と「蘭亭序」、「争坐位文稿」の共通点や相違点を確認させる。</p> <p>・不整合な箇所があれば、その都度修正させる。</p> <p>・自身のグループにない意見を、メモさせる。</p>	<p>・映像資料と空海作品や関連することわざを提示。</p> <p>・座標軸の書き方や付箋の色を提示。</p> <p>・鑑賞カードの例を提示する。</p> <p>・鑑賞カードの例を提示する。</p>	<p>・カードを撮影してホワイトボードに投影しても文字が小さくな</p>

	カードを見合い、ワークシートに評価をする。			るため、ワークシートを目視させる。
まとめ (5分)	6. 本時の学習内容を振り返る。	・次時への意識付けをさせる。	・本時のまとめと、次時の学習を提示し、学びを関連づける。	

(授業の様子)

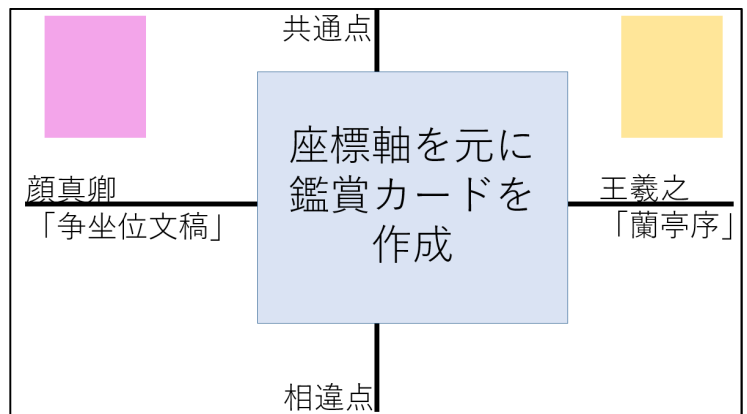
鑑賞カード 「風信帖」の特徴

王羲之「蘭亭序」、顔真卿「争坐位文稿」と比較した

班の名前 _____

班員 _____

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30



パワーポイント スライド例

使用したワークシート（鑑賞カード）

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

➤ 生徒の反応

板書には1時間を通して変わらない単元名や目標を提示し、生徒の活動内容をパワーポイントで提示したことにより、生徒が目標を意識して活動することができた。また、生徒は空海の映像資料を見ることにより、想像したり資料を読むだけでは分からない空海の人となりや平安時代や唐の世界観を知ることができ、そこで得た知識を「風信帖」の鑑賞に応用することができていた。

➤ 課題

書道教室には電子黒板がなく、加えてプロジェクターも他の教科と共有のため、毎時間使用することができない。書画カメラはブラウン管テレビにしか対応してお

らず、更に新しく買ったテレビは後ろの席からでは見ることができない。これらを改善し、ICTを生徒が意欲的に取り組む授業の手立てとするために、芸術科もハード面で充実させる必要がある。

➤ 改善点、今後の展望

パワーポイントは、授業の一瞬一瞬に集中することができるという利点があるが、前の画面を提示し続けることができないという欠点がある。板書のように常に生徒の目にとどめておくことを可能にするためには、投影する範囲を広げたり板書や貼り物と共に使用していったりする必要がある。そのため、どのような板書計画（投影するスライドの計画）を行えば、授業目標を達成できるかを毎時間考えていきたい。加えて、生徒にメモを取る重要性を説き、自ら学ぶ姿勢を向上させたい。

また、動画サイトにアップロードされた動画を視聴する際に、校内のWi-Fiでは読み込みに大変時間がかかる。今回は20分間の動画を映すために、1時間以上前からWEB上での読み込みを始めた。他の機器を使用したり、可能であれば動画を事前にダウンロードしたりして準備時間の短縮に努め、本来の教材研究の時間を確保したい。